

令和4年度 新潟市美術館及び新潟市新津美術館協議会 議事録要旨

日 時 令和4年12月16日(金) 午後2時から4時

会 場 新潟市美術館 2階 講堂

出席者

(委員) 会 長	中山 輝也	新潟県博物館協議会会長
副会長	佐藤 靖子	新潟市立内野中学校校長
	捧 実穂	雪梁舎美術館理事長
	島 敦彦	国立国際美術館館長
	鈴木 晃	新潟市美術協会参事
	田中 咲子	新潟大学人文学部・教育学部教授
	馬場 省吾	長岡造形大学学長
	三保 恵美子	茶道表千家教授
	白須 苗子	公募委員
	山浦 健夫	公募委員

(事務局)	高田 章子	新潟市文化スポーツ部長
	前山 裕司	新潟市美術館館長
	川瀬 正勝	同 副館長
	鈴木 力	同 総務係長
	荒井 直美	同 学芸係長(主幹)
	松沢 寿重	新潟市新津美術館館長
	栢森 文夫	同 主幹

次 第

- 1 部長挨拶 文化スポーツ部長 高田 章子
- 2 開会挨拶 新潟市美術館館長 前山 裕司
- 3 委員紹介(自己紹介)
- 4 議事
 - (1) 会長、副会長の選任
 - (2) 新潟市美術館・新津美術館 前年度事業報告
 - (3) 新潟市美術館・新津美術館 次年度事業計画
 - (4) その他
- 5 閉会挨拶 新津美術館館長 松沢 寿重

1 部長挨拶

(高田部長)

本市は、新潟市美術館と新津美術館の2つの特色のある美術館を有している。文化芸術は心豊かな社会の形成に資するもので、12月議会に新総合計画を提出しているが、その中で、市民の皆さまが文化芸術に気軽に触れ合う機会を充実する、創出することを重要な政策の一つとして掲げている。皆さまからは、ここの2館の運営、事業、そしてあるべき姿について忌憚のないご意見、ご助言をいただきたく、どうぞお願いいたします。

さて、最近では新型コロナウイルス感染症第8波が猛威を振るっており、エネルギー価格、そして物価の高騰というところがある。また、こちらの現場では施設の老朽化など課題は満載ではあるが、このご審議を踏まえながら、前山館長、そして松沢館長と共に充実した美術館を運営できるように頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2 開会挨拶

(前山館長)

現在、協議会は年に1回になっており、報告事項、審議事項など多くあるため、私からくどくどと挨拶を申し上げるようなことはしないようにしたい。十分にご審議をお願いしたいということで私の開会の挨拶とさせていただきたい。どうぞよろしくお願いいたします。

3 委員紹介（自己紹介）

出席委員が自己紹介。

4 議事

(1) 会長、副会長の選任

(田中委員)

これまでも務めてくださった中山会長に委員長で、佐藤先生に副委員長をお務めいただきたいが、いかがか。→ 全会一致で承認。

(中山会長)

図らずも皆さま方の推薦で、また務めさせていただきますが、きっと1番高齢だからじゃないかと思っております。これまで精一杯努力をして2館が素晴らしくなっており、今後も市民の要望に応えられるよう、私共も頑張りたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

いたします。

(佐藤副会長)

美術館の運営、より良い協議になりますように皆さまからの忌憚のないご意見いただきたいと思う。どうぞよろしくお願ひいたします。

(2) 新潟市美術館・新津美術館 前年度事業報告

年報及びパワーポイントの画像に沿って、新潟市美術館の令和3年度の事業報告と参考に令和4年度事業について事務局より説明。

続いて、年報及びパワーポイントの画像に沿って、新津美術館の令和3年度の事業報告と参考に令和4年度事業について事務局より説明。

(島委員)

昨年度及び今年度の活動についてお話いただいて、特に教育普及的な活動というのは直接的にはそれほど多くは触れられなかったが、何か特筆すべきことなどがもしあれば教えていただきたい。両館それぞれ簡潔にお願いできればと思う。例年通りというものも勿論あると思うが、何かちょっと特徴的なものがもしあれば、よろしくお願ひしたい。

(荒井学芸係長)

新潟市美術館の教育普及活動だが、一応、例年並みと言うか、やはりコロナで未だにワークショップの復活が正直なところできていない。このため、ラウンジNの「きままプログラム」は、令和2年度は完全に自粛状態だったが、こちらをわりと触れない物に変更するなど、少しずつ解禁するということから始めたところである。お手元の年報 34 ページに、「気になる顔を描いてみよう!」、「自分だけの山をつくろう」など、それぞれコレクション展の顔や、山歩きなどに絡めながらやっているのと、毎年恒例の「みんなで作る☆クリスマス」、これも只今下で開催中だが、それも前年は写真投稿みたいなかたちをとっていたのを、少しずつこうやって造形活動のほうに戻していつているところである。

(松沢館長)

新津美術館は、教育普及事業全般に関しては一応例年並みに実施できたというところである。一昨年度、コロナの影響でいろいろと臨時的な措置が必要で、やろうと思っていた事がなかなかできなかつたりということはあったのだが、昨年度に関しては、学校との連携の出前美術館が、延べが2～3日であったとは思いますが実施することが出来た。あと特徴的な取り組みということで言うと、館内のアトリウムを使って夏場にミュージアムコンサートをよくやっていたのだが、それを昨年度に関しては、地元のファッションブランドの方とコラボで

ファッションショーというかたちで開催したということが真新しい活動だったと言える。

(田中委員)

展示そのものではないのだが、昨年度、新津美術館のカフェが新しくなったということで、評判だと伺っている。こちらの新潟市美術館のほうも、カフェもショップのほうもすごく良い雰囲気だと拝見しているのだが、両館のショップ・カフェと展示との関連で、最近の傾向などあったら伺えればと思う。

(松沢館長)

新津美術館だが、まずカフェの昨年のプロポーザルには、お力添えをいただきましてありがとうございました。ご承知の通り、新津美術館、長年カフェをやってくださっていた方がご高齢になったということもあって、もう撤退したいというお話があったため、これを機会に、新しい意欲のある方を募って、プロポーザルで入っていただくということが、昨年度9月からあった。新潟でフレームさんというデザイン会社を経営されている方だが、その方が手を挙げてくださって、非常に意欲的に店舗の雰囲気もガラリと変えてくださった。調理場と言えるほどの厨房設備が実は新津美術館の場合は無くて色々制約がある中、工夫して下さって、自分でデザインされた物も、少し展示をする棚なんかも特注で作られたりして、あの美術館の空間に非常にマッチングするような展開をしてくださっている。お陰様で大変好評である。情報発信力も独自におありのもの、今新潟日報で月2回、連載エッセイをされていたり、「月刊にいがた」も取材に来られて、新潟市美術館と新津美術館と合わせてカフェとショップを紹介していただけたりというようなことで、非常に良い展開になっているなあと考えている。

(前山館長)

新潟市美術館については私に喋らせてください。前にいた美術館で私はショップの店長もやっていたため、どうしても喋りたくなくなってしまふ。

ここの館長職の採用の面接の時も、最初の質問で美術館の印象を聞かれて、ショップを褒めた。それぐらいここのショップはとても良いショップで、県外、東京の人とか来られた方も、大体ショップを褒めていただく。

それからカフェのほうは、美術館よりも取材が多いというので有名なカフェなので、勿論協力はし合っているが、独自の発想でやっていけるようなカフェだと思う。

ショップに関しては、本当なら私は仕入れもやりたいぐらいなのだが、それはテナントさんなので、そこまで口出しはしないが。フェアを中心にやってらっしゃるので、フェアというのは要するにイベント的に、あるブランドのファッションとかを、短期間展開したりとかというような事をやっているのだから、それを目当てにお客さんがいらしたりということもあるぐ

らいで、非常に活発に活動されているという気がしている。

正直、美術館との連携に関しては、私は不満が残っている。というのは、それは美術館側の問題だと思うが、企画展で色々仕入れて売るという事には問題ないのだが、もっと収蔵品と絡めた物を作りたいというのは私の希望としてはあるが、なかなかそこまでは行けてないというのが現状である。と、勝手なことを言わせていただいた。

(荒井学芸係長)

今、館長が申し上げた通り、当館の所蔵品とのグッズ開発というのがまだできていないが、今年度になるが絵本原画展でオリジナルグッズを作ろうという試み、着手はしていた。ちょっと残念ながら、結実しなかったが、「リアルゆくえ」展で若干のオリジナルグッズを、作家のご理解を得て作成することができて、今、下で販売をしている。

カフェのほうでも、「マン・レイと女性たち」展のところで、それぞれマン・レイが関わりを持った女性たちのイメージに合わせたミニパフェのようなものを、フルーツソースなどを添えながら、オリジナルメニューとしてコラボ商品として提供していただいたりということで、大変展覧会のほうにも関心を持って両者、ご協力くださっている。

(馬場委員)

今日初めて色々報告を聞かせていただいた。私は新潟市美術館も新津美術館のほうも、年に数回は行かせていただいて、これまで十数年、見させていただいた。率直な感想になるが、以前新津美術館は新津市美術館ということで、今度新潟市になったことで素晴らしいなあと思っている、市が2つ持っているということはよいのだが、新潟市美術館の企画と新津美術館の企画はターゲットが違うのかなというのは感じていて、新津美術館の企画展が親子さん、子どもさんが楽しめる企画っていうので、結構やってらっしゃる、かなり前からやってらっしゃった。企画、非常にサブカル的な、入り込みやすいというか、子どもさんがすごく喜ぶような、そういうものが企画されていて、いっぱい来られている。美術館に子どもさんが親を引っ張ってくる感じっていうのが何回か観ているときに、この美術館はそういうポリシーでやってらっしゃるのかなっていうのが以前から気にはなっていた。また、新潟市美術館は新潟市美術館で結構しっかりとした企画展をされているため、それはそれで観に来る時には非常に満足する内容であるということで、企画の内容ですごくターゲットというか、観に来る人が変わってくるんだなというのは、当たり前だがユーザーとしては観て楽しいなと思っていた。

それから、ショップの話である。うちの大学の前は新潟県立近代美術館があるのだが、ショップさんも撤退されて企画展の関連商品も無い。その辺の連動がなかなかできてないのが勿体ないなあっていう感じがして、美術館は今は絵を観に行くだけでなく、先ほど出ていた

ように心地よい時間が過ごせるカフェがあったら、美術館を観に行くよりもカフェに行くとか、そういう顧客のニーズが変わってきているのかなという気はしている。そのため、美術館のカフェに行きたい、美術館のカフェの雰囲気が良いからというのは、結構そういう目的性がちゃんとしていたりするのだが、新潟はその辺がちゃんとあるのかなっていうことを、今お話を聞いていて思った。その辺マネジメントとしてすごく重要なところで、どうしても美術に関係ある物っていう風になってしまうと、ややちょっと無理があるのかなと。金沢21世紀美術館に行くと、あまり展示とは関係ない非常にデザインティックな商品が多い。お店が非常にアンテナが鋭くて、なかなか良い商品を置いて、それで並んで買い求めている。そういう流れみたいなものを作る、買いたいという衝動を起こすようなショップの目的性と、それから今言われたように、やっぱりカフェに行きたいんだというような、その辺のところをもう少し考えられると、本来、新しい客層というか、滞在時間も増えたりするのかなってというのが、ちょっと思うところである。

(白須委員)

私もショップとカフェは、新潟市美術館に来ると必ず立ち寄り、良い所だと思っている。そして新津美術館のほうだが、「田中達也」展の時だったか、春休み中のものすごく混んでいる時に行ったのだが、お天気の良い日だと周りで結構遊んでいるファミリーの方が多くて、コロナで遠出ができない分、ちょっと今日お天気が良いからどこか行ってみようかっていうようなファミリーの方も結構行ってらした、ものすごく混んでいた日だったのだが、あそこは周りの環境が車も無くて危なくて良いので、その時にちょっと気になったのだが、家族の方が言っていたのだが、すぐ前の白いオブジェが「閉館中」ってなっている。私じゃなくその小さいお子さん達が言ったのだが、「ここ入れるのかな〜？」なんていう感じで、ちょっとそれだけ気になって、一応「閉館中」ってなっていたので、それも含めて「ここは入れないんだよ」とご家族の方が言ってらしたのだが、それ以降私も気になってしまっ。この間、冬囲いがしてあったのだが、混んでいるとあの辺は子どもの遊び場になっているので、あれがいつも「閉館中」ってなっていて、それも含めて作品なのかなと思っているのだが、それだけちょっと気になっている。

(松沢館長)

実はあの作品は中が小部屋になっていて、水琴窟が仕込まれてある作品である。2009年の「水と土の芸術祭」の参加作品で、高田洋一さんという方の作品なのだが、中が狭いということもあり、今はコロナ禍という事情もあって、暫くそこは開室を見合わせているという状況である。実は、「水と土の芸術祭」の関連の作品のメンテナンスというか、管理を引き継いでいるのが新潟市の文化政策課の中にセクションがあり、そこがメンテナンスを時々し

て、作家とコミュニケーションを取りながら色々と相談をして、冬囲いをしたり、この間、10月下旬にメンテナンスに来てくださったりしているが、そのうちまた落ち着いた頃合いに、お披露目できるといいなあという風には思っている。

(捧委員)

初めに新潟市美術館は3月に私が観た展覧会で「LOVE&LIFE」と、5月の「絵本原画の世界」と、7月の「マン・レイと女性たち」、又、新津美術館のほうは4月に「MINIATURE LIFE 展2」、8月の「田島征三展」を観に行き、それぞれちょっと感想をメモして来たので、もうだいぶ前だったので忘れかけているものも結構あるのだが、お話したい。「LOVE&LIFE」は全部収蔵品ですよ。切り口が面白くて、本当に解釈により想像力があり、学芸員の方々の力を感じた。美術館の職員として参考になり、収蔵品の企画としてためになった。一度に幅広いアーティストの作品が観られて、すごく楽しかった。「絵本原画の世界」は、絵本なので結構簡単に観られるのかなと思って行ったところ、ものすごく見応えがある展示で、有名な画家とかデザイナーが手掛けている絵本があって楽しめた。別の観点から。子どもに本物を、一流の芸術作品をという福音館書店の考え方が素晴らしいなと思って感銘を受けてきた。7月の「マン・レイと女性たち」は、県外に行ったときに、他の美術館にマン・レイがあったのだが、巡回ですよ、他県でも同じようなポスターをちょっと見たので。これを選ばれたのは新潟市美術館らしきもあって、見応えがあった。後半くたくたになりながら見ていたが、見応えがあって良かったと思う。ポスターの写真に引っ張られて、男性が多かったなと思った。新津美術館のほうは4月に「MINIATURE LIFE 展2」、もうこれはお客さんがいっぱいだったと思うが、娘と孫と一緒に行ったのだが、写真が背景にあって、それが面白いなと思った。又、8月の田島征三の展覧会も、絵本作家といえども大人も楽しめて、そのあと十日町の「大地の芸術祭」で廃校になった学校、あそこも行った。孫も喜んでいて、展示も低い位置に色々書いてあり、本当に子どもも大人も楽しめるような親しみの持てる展示であった。会場が第1と第2がいつもと逆になっていて、最初いつもの通りに第2のほうから観てしまった。今回は逆なんだ、と思って。又、売店が面白くて、私も行くと買ってくるほうで、いっぱい買ってきてしまうのだが、先ほど4,300万もリサ・ラーソン展が売り上げた。どういう風にしたらそんなに売れるのか教えていただきたいくらい。雪梁舎美術館も小さい売店があり、いつも収蔵品と関連付けた物を作ろうと思っている。来月マイセン展を開催するので、マイセンに関連したグッズを今製作中なのだが、なかなかロットと販売価格とのせめぎあいがいままで大変で、作りたいけれども高がついたり、全然収支が取れなかったりして、売店のことは常に気になっている。もし良いアイデアがあったら教えていただきたいなと思っているところである。公益の新潟市美術館など、新潟市がやっているような所は、

多分年配の方から子どもさんまで幅広く企画するのが本当に大変だと思う。例えば企画展は大人の企画であったとしたら、常設は子どもも楽しめるような企画で、親子で楽しめたら本当に良いんだけどと友達が言っていた。というのが、私が今年観た両館の展覧会なのだが、最後に1つ質問があって、企画の決め方っていうのか、両館でどっちがどれをやるっていう、企画の分け方が気になった。

(前山館長)

それに関しては、まだ課題と言ってもよい部分だと思っている。つまり、単館でいちから作り上げてやる展覧会の予算がないので、巡回展を組むようなかたちでないとなかなか展覧会ができにくい。巡回展でこういうのがありますというのは、企画会社というところからオファーが来る。それは一応両館別々に来ることが多いので、というのは、これまでの付き合い、一緒に仕事したとか、そういうところにまず話しやすいので来るわけだが、その中でどういう展覧会をやるかっていう、勿論、これは新潟市美術館よりも新津美術館に向いているねみたいな話が出ることもあるが、明確に、では今これは新潟市美術館でやろう、これは新津美術館でやろうっていうようなことがはっきりできているわけではない。ある程度の段階で、特に予算の前などに来年度の計画みたいなものを話し合うというようなかたちで進んでいる。もう一つ、実はどの巡回展も、やれるかやれないかの判断までが結構時間がかかるものである。実行委員会を組むのか、メディアと組むのかとか、色々なことを考えないと、できるかできないかが決まらないので、その間に時間が経っちゃっているのだが、しっかり打ち合わせをするっていうような状況に今ないので、そこは今後変えていきたいと思っている。

(山浦委員)

いつも新津美術館それから新潟市美術館の展覧会は、最近理解力がなくなってきたっていうこともあるのだが、必ず2回以上拝見しており、段々色々なことが見えてくる。私も実は展覧会を観た中で感じていることが、企画展の話はもうだいぶ話が出たので言わないが、常設展示のほうである。新潟市美術館の「LOVE&LIFE 展」であったであろうか、所蔵品を観てもらったということでも展示されたのだが、ああ、こういう良いものもお持ちなのですね、という率直なところ感想を持った。まだ、これ全部じゃありませんと学芸員の方がおっしゃっていたので、まだまだ秘蔵と言うか、収蔵庫の奥にあるのかなと、そんなことを感じ取った。古いことを言って申し訳ないのだが、美術館はやっぱ常設展示がひとつの勝負だと思っているので、是非そういうものを展示して、テーマを決めて展示していただければと思う。それから、今度は子育て論になってしまうのだが、「田中達也展」は、85,000 人入ったということで、すごいなと思った。反面、美術を鑑賞する、観る側のモラルというか、非

常にそういうものを私は感じた。子どもが騒いで走る、子どもに走るなど言うほうが無理なのかもしれないが。あと写真撮影でなかなか観客が流れないとか、ここまで人が入るとは思わなかったということになるのかもしれないが、親として、やはり社会教育で教えることが何かあるのかなということ素直に思った。それからもう1つ、図録だが、3年くらい前（2019年度）に福島県立美術館での森田恒友の展覧会だったと思うのだが、もう図録のほうを安くして売っていた。森田恒友はあまり有名ではないのだが、大事な画家だとは思う。そのへんの見極め、ここで過ぎたら安く売ってもいいんだとか、安く売るんだとか、そういうようなものは新潟市美術館のほうでは何かお考えがあるのかなと。もしあればちょっとお聞かせいただけたらと思う。

（前山館長）

本筋の話ではないのだが、森田恒友は前いた美術館の大事な画家なので。恒友の作品は埼玉にもものすごくある。私が出た後になるが、福島県立美術館と組んで開催した展覧会である。恐らく、何年経過したら何割引くってというルールがあるのではないかと思うが。

（川瀬副館長）

具体的な数字が今出ないのだが、今話にあったように、3年経つと何割とかということで、安くなっていき、200円で買える図録もあるので、基本的にはおっしゃるようなかたちで販売している。

（鈴木委員）

初めて参加した者なので、よくわからないこともあって、質問をお願いしたいと思う。さっきから話があった企画展の組み合わせの方針について、そういうものがそれぞれ美術館でまずあるかどうかということ。それから2つ目は、常設展、市の美術館、新潟市の美術館、このあいだ彫刻がいっぱい飾ってあって、初めて観るなあというのが結構あって、良いのが並んでいた。それが感想である。3つ目は、この「Wave」という冊子、あんまり今までよく見てなかったのだが、見ていたらすごく馴染みのある風景とか、学芸員の方が、ここ良いぞって話載っていて、学芸員さんの素顔がすごく感じられて、ほのぼのとした。

（前山館長）

ありがとうございます。その「Wave」の企画は私が発案した。裏にあるテーマとしては、美術館がなんか閉じこもっているようにちょっと思われがちなので、そうじゃないよ、街にも開いているよ、というか街とも繋がっているんだよっていうことをなんとなくアピールしたいなっていう思いがあって、その特集を組んでみた。それから、まず最初の、というか1番重要な点だが、展覧会企画展の棲み分けの話なのだが、先ほど配布の資料の中にもあるが、「両館の展示方針について」というペーパーがある。これは目新しいことを言っているわけ

でもないのだが、現状を、一応文字に起こしたというようなことで、正直言うとどんな展覧会でもできるようにはしてある。両館、先ほども新津美術館のほうが、子どもに焦点を当てた展覧会をこれまでもやってきたってというようなこともあり、その方針を継続しながら、これはまた物理的な話なのだが、駐車場がある、大きいということが、実はお子さま連れに対してはやっぱりどうしても駐車場が必要である。だから、そういう意味では新津のほうが有利だということもあり、その方針はあまり変えないでいこうと。新潟市美術館に関しては、やはり王道といきたいなっていう風に思っている。これは何と云うか、やせ我慢ではないが、やはり美術館は王道をやっぱり見せなくちゃいけないっていう意識がある。やはり美術史、絵画、彫刻のようなものを見せる場所でありたい。社会教育というか、教育機関としての美術館っていうのが、今日本の美術館はちょっと危うくなってきているので、敢えてというか、やはり美術をちゃんと見せる場所でありたいという思いがある。最近よく言われるのだが、普通の美術の展覧会をやるのは、この新潟県の中でも新潟市美術館くらいかなっていうようなことをよその美術館の人から言われたことがあるのだが、それは恐らく日本中でそういう傾向だと思う。絵画、彫刻みたいなものを、というか王道の美術をやる、「マン・レイ」も王道だと思ってるので、写真とかも含めてなのだが、そういうものをやる所が減っているっていう思いがちょっとある。やはり新潟市美術館は他にも色々書いてあるが、勿論、収蔵品を理解するため、「マン・レイ展」はそれに該当するが、新潟市美術館の収蔵品にはシュルレアリスムが多いので、それを理解するためにシュルレアリストの「マン・レイ」の展覧会をやる、そういう関連付けも重要なことだと思っている。新津美術館のほうは、マンガ・アニメなんかも含めた集客力のある展覧会を、駐車場もあるので、そういうものを作っていく。両方どちらでもやるようなものも勿論ある。これは実際、この通りうまくはまるというものでもないで、その都度考えながら選んでいる。

(三保委員)

大学の茶道部の指導もやっており、新津美術館で「長谷川コレクション」があった時に、学生を連れて行ったのだが、「美術館って行ったことある？」って言ったら「ない」と。それで、子どもの時から美術館に行くという経験がないっていうことになるので、今の青年層経験には、美術館っていうのはないようだ。子どもの時から美術館に行くという習慣付けみたいなのがあると、もっと美術館に若い人たちが行くのではないかなと思うが、新津美術館にある子ども用の履き替え用の履物を見ると、子どもの音などで成年利用者とのトラブルを思い、職員や子どもをもつ利用者の皆さんのご苦勞を思い胸が痛む。「音」というものにすごく気を遣ってらっしゃるんじゃないかなと思う。子どもの時間も用意してらっしゃるのはわかるのだが、その時だけは大人の人たち勘弁してねっていうことをもうちょっとアピールを

して、親の役割もあるのだが、子どもたちがもうちょっと気兼ねなく入れるような工夫がいるのではないかというような気がしている。私は脚が悪いと申し上げたが、新津美術館のあの正面階段はとても怖い。おそらく、美的センスが優先だったのだと思うのだが、私よりも上のおばあちゃんたちは、みんなあそこが怖いって言っていて、もうエレベーターの常連である。初めてエレベーターに乗った時に、エレベーターが開いた時にどこへ行ったらいいかわからない。つまり、職員の方たちが、そういうそのお客さんの立場で館内を見てらっしゃるかどうかっていうのがとても気になっており、もう私も何回も行っているのに、ああこっち行けばいいんだなっていうのがわかるのだが、右行くとどうなの、左行くとどうなのといった表示がちょっと欠けているのではないかなと思う。きつい言い方なのだが、そういう点であまり美術館はそのような表示はお好みにならないとは思っているのだが。こちらもそうだが、初めての人たちが来た時にどう行ったらいいかとか、第1会場、第2会場が変わった時もあるという風な話もあったが、そういった説明表示もあってもいいかなど。利用者の立場で職員の方が見直していらっしゃるかどうかがちょっと気になった。もう1つ、東京の国立博物館だと、京都の鶴屋吉信がお菓子を出している。新潟のカフェもよいのだが、カフェに新潟のお菓子屋さんのお菓子をちょっと出していただくとか、そういう関連性があってもいいかなと思う。ここに来れば新潟の美味しいお菓子食べられるよというのもひとつの楽しみかもしれないと思った。

(松沢館長)

貴重なご意見ありがとうございました。おっしゃる通り、最近はずっと高齢化が進展しているというようなこともあって、新津美術館のアトリウムの空間が大階段はちょっと苦手だと言う方がやはり増えてきているのかなという風に考えている。お客さんがたくさんいらっしゃる中で、脚が不自由で杖をつかれていらっしゃる方がいたりする場合は、エレベーターのほうをご案内したりとか、そういうことは極力させていただくようにしている。ただ、施設の使い勝手に慣れている方ばかりではないというのは確かにご意見の通りなので、初めていらっしゃった方、施設の平面プランがわからないという方にもなるべく手が届くような、工夫がもう少し必要なのかなという風に、今ご意見伺って感じていた。それから新潟のお菓子だが、ただ、新津美術館のカフェに関しては、自分の所でパッケージデザインに関わった商品を出すというポリシーがあるようなので、ちょっとそのあたりは相談が必要かなと考えている。

(佐藤副会長)

冒頭の島委員の美術教育についてのご質問や、山浦委員の鑑賞マナー等、やはり誰もが通る学校教育であり、学校教育が担う部分が大きいと思う。また、先ほど三保委員のご意見で

お子さんがいるならば等、そのような時間帯もすごく賛同する。実は昨日と一昨日、当校、内野中学校に荒井学芸係長から2日間も来ていただいた。当校は800人規模の学校だが、2学年全部の8クラスに全てアートカードによる鑑賞の授業をしていただいた。本当に素晴らしい内容で、「作家の作品は実際に持って来られないけれども私（荒井係長）が来ることはできますよ」ということで、アートカードを使って「リアルのゆくえ」の作品が本物なのかどうなのかを生徒同士で意見を述べ合う内容の授業を展開していただき、鑑賞の学習を行った。このように導き出していただければ、おそらく行ってみたいという気持ちが生まれると思うのだが、どのクラスにも「美術館行ったことがありますか？」と聞いた所、ほとんどゼロであった。実際、美術館へ保護者と一緒に行くという経験はなかなか少ないようだ。学校の中でも美術部がどの学校にもある。当校も約40～50人おり、実は比較的多い人数の部活の一つに美術部があげられる。大体トータルして数えたことはないが、新潟市内でも400～500人の美術部員がいるのではないかとも思われる。その中で令和5年の4月から、土日祝日の部活動が地域移行として順次スタートし、3年後には、平日も移行する予定である。そうした時に、スポーツ関係の部活動はある拠点があり動きがあるのだが、この文化部系の美術部員がどのように活動したらよいのだろうということが、どの学校も悩んでおり、美術教師は各学校1人いるか、いないかであり、地域移行も進みづらい状況である。美術教員数は新潟市内約40人位であり、1週間の時数が少ないため中には3校掛け持ちという教員もいる。美術を嗜む生徒たちが放課後の活動ができない状況下になるのではないかと思った時に、この年報にもある通り、ワークショップをたくさんやってらっしゃるということで、美術のご経験がある方が外部指導者として、学校教育と連携して、または地域で拠点を設けて美術を嗜めるような活動ができないかなということを考えている。例えば高橋留美子さんは、「めぞん一刻」「うる星やつら」等で有名な新潟が生んだ大漫画家さんだが、やはり中学校時代、高校時代と美術部員であった。本当に美術が大好きな生徒たちはたくさんいる。毎日とは言わないが、何かワークショップを頻繁に行うとか、美術が経験できる、美術を嗜んでらっしゃる方を紹介していただける等、これから新潟市をあげて必要ではないかと思っている。11月に政令市の校長会代表者会があり、京都市は副市長がこのような部活動地域移行について部局を超えて整理しているとか、神戸市はスポーツ関係の整理が先行していたが、元アスリートなどがたくさんいるので、コナミスポーツと連携して行っている等、スポーツの話は聞くのだが、美術部やパソコン部等どのような地域移行の活動となるのか、大変心配である。

(3) 新潟市美術館・新津美術館 次年度事業計画

資料2、パワーポイントの画像に沿って、新潟市美術館の令和5年度の事業計画について

て事務局より説明。

続いて、資料3、パワーポイントの画像に沿って、新津美術館の令和5年度の事業計画について事務局より説明。

(島委員)

来年の色々な展覧会、楽しみにしてる。特に新潟市美術館で行われる「『前衛』写真の精神」というのは、瀧口修造さんという人が、本人は写真を撮られるわけではないが、写真評論をはじめ、戦前から非常に活躍されていたので、阿部さんと共に、この解説のところに生誕120年、生誕110年という風に、皆さんがちょうど周年を迎えるという非常に面白い企画になると思う。あと1つだけ、来年の展覧会についてというよりも、前山館長がこの「Wave」に「近づきやすいですか、美術館」という記事を書かれている。非常に重要な問題提起をされていて、とりわけ近年、障がいのある人たちが美術館に来る時にどうしたらいいのかという、そのアクセシビリティである。例えば、初めて車椅子で新潟駅に着いて、美術館に行きたいと思った時にどうやって行ったらいいのかというのを、ホームページを見たら、この道は車椅子通りやすいですよとか、エレベーターはここにありますよっていうのが、丁寧に映像とか写真で、見られるものがあれば、それだけですぐ、今スマホを皆さんほとんど持っていらっしゃるので、そういったことができるのかなと思う。そういう意味で、障がいを持った方々をお招きするというアクセシビリティと、それから鑑賞の機会を、多分新潟県内にもいらっしゃると思うので、そういった方々に鑑賞する機会を設けること、あるいは、教育普及事業の中でワークショップを展開するというのは非常に重要になっていると思う。実は国際美術館でも、2～3年前から全盲の人たちをお招きしてワークショップをやっている。金沢にいる時は、聾者の方々の、それはほぼ毎年、ここ数年やっていて、実は僕も聾者の方で、石川県に聾者の何かそういう部署があって、そこの担当の人が来て、職員全員に手話の講習会を行った。これは非常に発見があり、そういう意味では職員の方、ひょっとしたら新潟市にそういう部署があるのか、あるいは県内にそういった専門の方がもしいらっしゃったら、そういう研修会をやっただけでも意識が変わる。三保委員もおっしゃられた通り、初めてこの館に来られる方、あるいは初めて新潟県に来られた方が美術館に行きたいと思った時に、手立てになるようなもの、これを美術館側が率先して準備していくことが、どうしても20年、30年と美術館活動していると、みんな知っているだろうと思ひ込みがちなのだが。あと山浦委員がちょっとおっしゃられた、コレクションが充実している。非常に良いコレクションがあるのだが、多分そういうものがあるということが、多分あまり知られていないということになっているので、そういったことに是非力を注いでいただければと思っている。

(前山館長)

今の島委員のご発言について少しだけ。文化施設、美術館だけじゃなくて文化施設全体に対して、アクセシビリティの研修問題、僕の見た感じだと新潟市はまだ動きが鈍い気がしている。これからやっていかななくてはいけないなと思っている。いつでも、どこでも、誰でも、みたいなキャッチフレーズを掲げているグループなんかもあるのだが、施設側がどうしても恐れちゃうとか、身構えちゃうとかというようなことがあるので、事前に研修しておかないといけない。心構えみたいなものかな、別にやれることをやればいい、その時にその人がやれる、あとはもうホスピタリティでやっていけばいいという風に私は考えているので。これはでも、確か国際的な博物館協会とかでも、アクセシビリティをキーワードの中に入れてるので、これから真剣に考えていかななくてはいけない問題だと思っている。

(三保委員)

美術館の展示とか、そういうポスターってどこに貼ってあるのか。例えば新潟駅とか新津の駅とか、古町とか万代シティとか、そういう所、あまり見たことがない。この美術館前を車で通る時があるのだが、ここのイベントの表示、道に向かってポスターとか貼ってあるのだが、車で通る人はよそ見をしていられない。そういう通る人の視線とか考えると、もっとアピールできるんじゃないか、若者が集まる所にポッと置いて、それで心打たれて若者が来るとか、そういう若者の興味をもっと拾えるんじゃないかと思うのだが。

(荒井学芸係長)

ご意見大変ありがたい。ちょっとポスターの配布計画は、うちも課題のあるところではあるのだが、市内の、原則は公共機関中心、あとは古町の商店さんのほう等には、当館の協会のボランティアの皆さんにもご協力いただいて、貼っていただいているところ。あとは展覧会の内容によって、これは、例えば絵本原画展だと書店向きだとかいうようなかたちで、配る場所をターゲットに合わせて選びながら配布しているというようなかたちをとっている。そのほか若者向けとして、いわゆる SNS、facebook をこれまでやっているが、ごく最近、Instagram のほうも始めて、なお一層、そういう若者世代にも届くようにという努力をこれからも積んでいきたいなと思っている。

(田中委員)

今年度の予定を伺い、前衛というか、現代美術をテーマとしたものが結構充実していて安心した。今の「リアルゆくえ」展は現代作家もかなり取り上げられており、私自身も今日における写実の意義というのは常日頃思っているテーマだったので、充実したよい展覧会だと思うのだが、今年度はそれを除くと、「現代」が弱かった気がする。是非、新潟市美術館さんには現代の状況を知らせるようなものをしていただきたいと思っていた。ただし、挑戦的な展覧会というのは非常に意義があると思う一方、他方で関心を持ちにくい、持たな

い人が多いというのも現実である。今年度「マン・レイ」の展示を美術に詳しくない知人と拝見したが、解説が難解だったようである。難しいことではあるが、現代美術の面白さ、とつきにくさを取り払うような工夫もしながら、是非、そういった新しい価値を広げる活動としての展覧会をやっていただきたいと思っている。逆に近世以前がどうしてもやはり、地方の美術館だと難しい。あるいは、海外の第三世界のものとかも中々紹介されない。海外のものは昨今のお財布事情で難しいこともわかっているが、ただ、人々の価値観を広げる展覧会開催を是非、心掛けていただければ嬉しいと思う。

(馬場委員)

来年の企画展のことではないのだが、先ほどもおっしゃっていたように、どこにポスターがあるんだとか、やっぱり今の時代、情報をどう提供するのかということがすごく大事になってきていて、コロナということもあって人があまり外に出ない。それから、やっぱり刷り物というのは非常に限定されていて、お金もかかるし、大きなポスターだとやっぱり大変なことになる、それから貼ってもらう、送って貼ってくれるかどうかという、この辺って実はとても大きな問題があって、もう1つの考え方として先ほど SNS というお話が出てきた。先ほど障がい者の方もみんな持っているんだよね、というお話があったのだが、この中でやっぱりどういう風にそれをうまく使っていくのかという、だから情報をどのように早く適切に多くの人に伝えていくのかというのは、実は今、どの分野でも大事なことだと思う。特にビジュアル性能が良くなっていくという時代であるし、「あ、しまった。これやっていたんだな」とか、「美術館の、この企画今日までだったのか」「もう終わっているんだ」というのが多々ある。行けなくても、あ、こういうのやっているんだなって思うっていうのは実は大事なことだと私は思っていて、行きたいのは山々なんだけどなかなか行けない。でも、「あ、そうだったね。こういう作家いたね」という、次にすぐわかっていくような情報の伝え方というのが多分あると思う。それによって新しいファンを獲得する、「あ、行ってみよう」と思う気にさせるという、その辺働きかけてどうお考えになっているのかなとか、できればそういう風にされると、もしかしたらもう少し訴求力が上がる気がした。そういうところはいかがなのか。

(佐藤委員)

公共施設ということで、学校にも沢山ポスターやチラシをいただいている。ポスターは確実にどの小中学校も掲示していると思うし、チラシも100部程頂戴しているが、それを全校生徒分増し刷りするのは、膨大な紙数となる。しかし現在は、どの全国の小中学校も皆タブレット等のICT端末を持っているので、新潟市教育委員会を通じてL-GateというところにQRコードやチラシ等を送信すれば、新潟市内の児童生徒たちがいつでも自由に自分の手元

でチラシを見ることができると思う。増し刷りをして配布をしても、保護者に見せることなく終わっていることもあると思うので、ICT 端末を利用し広報していただけたら、児童生徒とそのご家族の来場者数も増えるのではないかと思います。よろしくお願ひしたい。

(鈴木委員)

私実習室を使わせていただいて、結構、毎週同じ顔の人が盛んに使っていて、親しみのある実習室だと思っている。前に比べるとちょっと使える回数が少なくなっているんじゃないかなと、聞いているが、今年は改修があるということで、その期間は当然使えなくなると思うのだが。あと実習講座、今年はなかったのか。来年は予定がもしあるのであればどんなことをやるのか、お聞かせいただければと思う。

(荒井学芸係長)

来年の実習講座というか実技講座についてのお問い合わせかと思うが、やはりコロナでしばらく本当にワークショップができておらず、来年度についてもまだちょっと中身もどうするかは決まっていない状況である。でも、やはりそういうお声もあることは私どもも承知しているので、いつか万全の体制で再開できたらいいなと思っている。実は今年、「マン・レイ展」に合わせて写真のワークショップをかなりもう講師とも話を詰めていたのだが、どうしても暗室の密室作業が要るということになって、見合わせる事となってしまった。ちょっとやり方を考えながら検討していきたいと思う。

(捧委員)

来年の企画展だが、両館共にバランスの良い感じで、子ども、大人、また前衛的なものとか、あと地元とか、全部それが1つずつ入っているようなかたちで、バランスの良い企画だなと思った。

(山浦委員)

来年の企画であるが、私も新潟市美術館、新津美術館とも、企画のほうも、和洋揃っているというか、あと近代現代揃っているというか、そういう風に企画も作られたのかなと思って、非常に頼もしく、また楽しみである。あと、先ほどやはり常設が良いっていうのは私だけじゃなくて他の方も観ても、やっぱり新潟市美術館の常設展示は所蔵品は良いんじゃないかと思うので、是非展示する機会を増やしてほしい。多分、同じものに、こういうことを言うと、集中するきらいもあるような気がするが、それなりにロダンとか有名な作品で、それは1点に行くっていうのもあるのだが、なるべく満遍なく出してもらえると有難いなと思っている。

(白須委員)

来年の事業計画についてはとても楽しみである。1つ広告の媒体の話が出ていたが、若い

保護者の方や若い人たちに接していると、もうこういう紙のお便りに慣れていない、既に。もう全部 Web になってしまっていて、こういうものに慣れていない方が多くなってきているのを肌で感じる。そうかといって、私より上の、私の母とか、私より上の世代はやはりこちらのほうが馴染みがある。逆に Web は苦手。なので、これからそのようなことが世代的に起きていくと、広告のやり方もとても難しく、本当に、こういうのに慣れていない若い世代が増えていて、私もびっくりするのだが、これからそういったことも考えられながらやっつけられないとなので、とても大変だなとは思いますが。

5 閉会挨拶

(松沢館長)

長時間にわたり貴重なご意見等いただきまして、誠にありがとうございました。特に昨今の高齢化の進展ということもあり、障がい者の方に向けた優しい美術館のあり方等、まだまだ私たちが取り組んで工夫していかなければならない問題が沢山あるなという風に考えた。いただいたご意見を踏まえて、両方の美術館、更により一層充実させて参りたいと思う。本日は誠にありがとうございました。